

福岡県議会中国訪問団調査報告書

1 日程 令和7年8月20日から24日まで

2 行程 別紙のとおり。

3 訪問団参加者

(議員派遣)

藏内 勇夫 福岡県議会議長

野原 隆士 県議会ワンヘルス・地方分権等調査特別委員会委員長

(日中友好議員連盟)

長 裕海 福岡県日中友好議員連盟会長

花田 尚彦 同 事務局長

(議会事務局職員)

志方 学 福岡県議会事務局 事務局長

松尾 典宜 同 総務課

その他別添名簿のとおり。

(注1) 日中友好議員連盟の2名については、議長に同行申請があり、許可されたもの。経費は、同議員連盟負担。

(注2) 上記以外の参加者は、それぞれ所属団体が経費を支弁

(注3) 議長については、日本獣医師会長の用務として実施した活動に係る部分は、日本獣医師会が負担。

4 活動の目的

昨年(令和6年)5月の日中韓首脳会議において、「国、地域及び世界の健康安全保障を強化するために、ワンヘルス・アプローチを通じて、多分野にわたる積極的な参加を奨励する。」とワンヘルスの理念を盛り込んだ共同声明が採択された。そこで、ワンヘルス推進の世界的な拠点を目指す福岡県が、この日中韓の連携の中で果たすべき役割を調査・検討するため、藏内議長及びワンヘルス・地方分権等調査特別委員会の野原委員長が関係団体等の代表者とともに中華人民共和国政府機関等を訪問し日中間におけるワンヘルスの推進及び国際交流に関する意見交換を行ったもの。また、併せて、西安市で開催される日中韓獣医師会 MOU 調印式及び中国獣医師大会に出席し、ワンヘルスに関する

国際協力の調査も行った。

5 訪問先

(1) 21日

- ① 中国国家疾病予防局（張俊副司長ほか3名）
- ② 農業農村部畜牧獣医局（陳光華副局長ほか3名）
- ③ 自治体国際化協会北京事務所（山本所長ほか3名）
- ④ 在中華人民共和国日本国大使館（金杉大使ほか3名）

(2) 22日

- ① 中国獣医協会主催のリーダーズフォーラム参加（参加者：7～11）
- ② 日中韓獣医師会 MOU 締結式及び交流会（参加者：全員）

(3) 23日

- ① 第12回中国獣医協会大会開会式及び展示ブース視察
- ② 陝西盛高動物製薬会社視察

6 各行程における活動の概要

訪問団は、8月20日の夜に北京市に到着し、翌21日に、まず中華人民共和国国家疾病予防制御局を訪問した。同局は、2019年末から蔓延した新型コロナへの対策を強化するため、2021年に設置された比較的新しい組織で、中国国民の疾病予防、防疫、公衆衛生の緊急時対応などを所管している。

同局では、冒頭、藏内議長が「現在、我々が直面しているワンヘルスの課題は、獣医師や医師だけで解決できるものではありません。我々人類全体が自分のこととして取り組まなければなりません。疾病予防や伝染病防疫を担う中国国家疾病予防制御局の皆様のご取り組みと我々のワンヘルスの推進は道筋が一致しており、こうした意味からも、今回の意見交換は大変意義深いものであり、日本と中国両国の未来にとって大きな実りをもたらすことを確信しています。」と挨拶し、張俊 副司長をはじめ同局幹部の方々と人獣共通感染症などを制御するワンヘルスの推進及び多国間の共同研究や人材育成の重要性について意見交換を行った。

訪問団としては、感染症の特性が人口1,000万人以上の都市、いわゆる人口の多いところが非常に発生率が高いということもあり、アジアがライトスポットエリアであることから、東アジアの国々が一体となって研究対策を進めるでき

であることともに、日本に特に我々の九州が朝鮮半島や中国に一番近いエリアにあるので、九州に国立のアジアの感染症センターを設置すべきであると再認識した。



次に、中華人民共和国農業農村部畜牧獸医局を訪問した。

同局では、藏内議長は、「中国は世界最大級の食肉生産国かつ消費国であり、人と動物との距離が身近だと考えています。こうしたことから、中国の獣医学や畜産を担う農業農村部畜牧獸医局の皆様は役割は大変重要であり、今回こうしてお話しできることは我々にとって大変意義深いものと考えています。」と挨拶し、陳光華 副局長ほか幹部の方とワンヘルスの推進に関して、動物の防疫や疫病の撲滅を通して人の健康に繋げるために、人の疾病予防、防疫、公衆衛生部門とも組織横断的に連携して取り組むことの重要性について意見交換を行いました。



続いて、自治体国際化協会北京事務所を訪問した。

同事務所では、藏内議長は、「福岡県と江蘇省は1992年に友好提携協定を締結して以来、県議会も江蘇省人代と30年以上、様々な分野において交流を積み重ね、数多くの成果を収めるとともに、強固な信頼関係を築いています。

そのような中、昨年5月に当時の岸田首相が出席した日中韓首脳会議におきまして、ワンヘルスの理念を盛り込んだ共同声明が採択されました。

ワンヘルスの推進は、2016年に、第2回世界医師会-世界獣医師会“ワンヘルスに関する国際会議で「福岡宣言」の採択以来、福岡から発信して参りました。

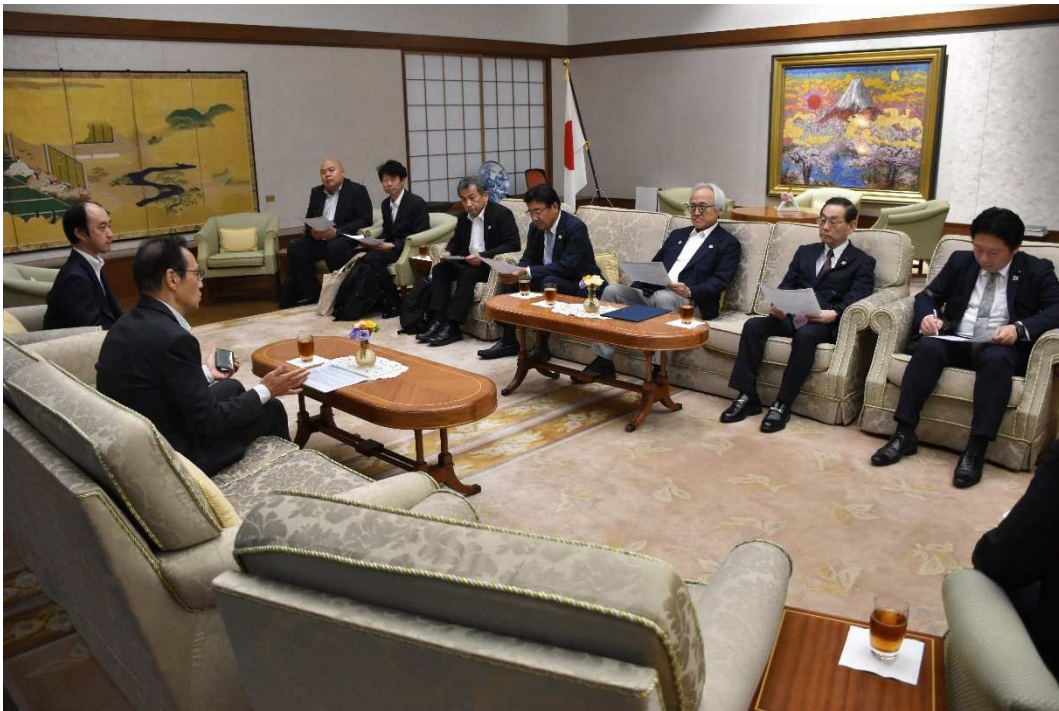
私は獣医師として、ワンヘルスをライフワークとして推進してまいりましたが、今後は世界獣医師会の次期会長として、アジア太平洋地域で進めてきた取り組みを世界に広げていくつもりです。

このため、日本全国の地方自治体の国際化事業を支援されている皆様のご活躍は大変意義があることだと考えています。」と挨拶し、山本倫彦所長から日中地方自治体間交流の現状について説明を受けるとともに、ワンヘルスの視点を取り入れた自治体間の交流について意見交換を行いました。





さらに続いて、在中華人民共和国日本大使館の金杉憲治大使を表敬訪問し、最近の中国情勢や日中関係などについて幅広い情報をお聞きするとともに、ワンヘルスの推進に関して意見交換を行いました。





翌22日は、北京市から西安市に移動し、日中韓3か国の獣医師会によるワンヘルス推進に関するMOU締結式に出席するとともに、各国の取り組みについて意見交換を行いました。





翌23日は、中国獣医師会大会に出席した。
同大会で、藏内議長は次のように来賓あいさつを行った。



「この度、第12回中国獣医師大会にお招きをいただきまして、チェン会長はじめ、関係者の皆さまには心から御礼申し上げます。

今回の訪問には、アジア獣医師会連合ワンヘルス福岡オフィス、そして、特に福岡県議会の日中友好及びワンヘルスを推進する県会議員の代表、九州大学

の准教授とともに参りました。

我々は今日まで獣医師として、獣医教育の向上、公衆衛生の促進、そして感染症及び薬剤耐性菌への対策に対するワンヘルスというものを推進してまいりました。

2024年に中国と韓国、日本の首脳による日中韓首脳会談においてワンヘルスアプローチを推進していくことが宣言されました。我々はそのことに基づいて、大韓獣医師会のホ会長にもご尽力いただき、昨日、日中韓獣医師会の間でワンヘルスを推進するMoUを締結することができました。

今回この大会の出席にあたり、日本の総理大臣を務められました岸田前総理に報告をし、こちらに参ったわけですが、岸田前総理が日中韓首脳会談で、ワンヘルスを提案されたわけであります。その岸田前総理からメッセージを預かってまいりましたので、通訳の方から報告をさせていただきたいと思っております。

(岸田前総理からのお祝いの言葉、通訳が中国語で読み上げ)

本日は、第12回中国獣医師会議が、中華人民共和国 西安市 (シーアン) において、盛大に開催されますこと、誠におめでとうございます。

この会議は、中国の獣医学界が獣医当局、業界のリーダー、世界中の開業獣医師を含む外国の同僚とのコミュニケーションと協力関係を構築することを可能にするものと聞いております。開催地の西安市 (シーアン) は、中国でも歴史のある素晴らしい都市の一つであり、大会にはふさわしい場所であると思っております。

獣医師の皆様の使命は多々ありますが、特に獣医学分野における治療、研究、教育を改善することにより、地域の動物の生活の質を向上させることと、藏内会長から私は教えてもらいました。

今回この会議に参加している日本獣医師会会長であり、世界獣医師会次期会長の藏内会長は、古くからワンヘルスの実践に基づく感染症対策が必要と考え、医師と獣医師のネットワークの構築、連携活動に取り組み、ワンヘルスをテーマとしたアジア獣医師会連合 (FAVA) の福岡大会を開催し、大会を成功させるなど、これまでの功績が高く評価されています。また、来年4月21日から東京において開催される世界獣医師会東京大会の開催に向け、準備を進められているところです。

同じくこの会議に参加しているFAVA会長の大韓民国のホ・ジュヒョン (Dr. Juhyung Hur) 博士におかれても、藏内会長と一緒にワンヘルスアプローチに基づく感染症対策の推進に取り組んでいただいております。

ワンヘルスについては、私が内閣総理大臣在任中に開催したG7広島サミットに先立ち、長崎市で開催された「G7長崎保健大臣会合」閣僚会議において、その成果として公表された「G7長崎保健大臣宣言」の中でも大きく取り上げられ

ました。また、昨年5月に韓国・ソウルにおいて行われた第9回日中韓サミットに日本国の総理として出席し、その中でも人獣共通感染症を含む健康危機への対処における協力を強化するため、ワンヘルスの推進について取り上げられ議論されました。

さらに、私は日中韓の獣医師会が連携していくことに大きな希望を持っており、国境を越えたワンヘルスの普及に一層寄与されますことを期待するとともに、日本政府といたしましても、引き続きワンヘルス実践活動の推進等に尽力してまいります。

この大会からの情報発信等が有意義なものとなり、獣医学の力で世界がより良い方向に進むことを願いますとともに、本日お集まりの皆様方のさらなる御健勝を御祈念申し上げ、私の御挨拶とさせていただきます。

.....

私(藏内議長)といたしましても、今回のこの大会に参加したこと、また昨日日中韓でワンヘルスに関するMoUを締結したこと、このことを元に、我々、中国、韓国、日本の獣医師が力を合わせて次の時代の子どもたちに健全な地球を残していくことに取組みたいと思います。」

その後、表彰される優秀な論文及び症例報告、新技術や新製品の公募プロジェクトの発表等の他、展示ブースの視察調査を行いました。



そのほか、西安市郊外の陝西盛澳動物製薬株式会社工場の現地調査を行うとともに、中国獣医師会会員等と意見交換を行うなど、ワンヘルスの推進に向けて、大変有意義で実りある訪問となりました。



※ 調査参考資料は添付のとおり。